

平成 21 年度大学院教育改革支援プログラム
「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」
「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告

．自主企画の内容

(1) 企画の名称

「こどものまち」と「児童中心主義教育」に学ぶ大人「口出し禁止」の意義

(2) 開催日時・会場

2009 年 2 月 6 日 13 時～16 時 N 棟 1 0 1 教室

(3) 講演者

中村 桃子 (子どもがつくるまち研究会)

小幡 肇 (奈良女子大学附属小学校教諭)

(4) 企画者

花輪 由樹 (人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻)

山本 賀世 (人間文化研究科博士前期課程言語文化学専攻)

(5) 支援教員

中山 徹 (人間文化研究科准教授)

(6) 参加人数

30 名

(内訳 : 【学内】大学院生 4 名、学部学生 7 名、

【学外】学部生 2 名 (近畿大、高知大)、一般の方々 18 名)

(7) 自主企画概要

本セミナーでは、子どもの主体性を活かすための大人の姿勢や役割について、参加者一人一人の視点で、考えてもらうことを目的とした。その一つの大きなテーマとして、大人「口出し禁止」をあげた。講演者は、子どもの仮設都市の遊び「こどものまち」を日本で 2002 年に立ち上げた中村桃子氏と、大正時代から続く「児童中心主義」を実施している奈良女子大学附属小学校の教諭である小幡肇氏に依頼した。参加者は、「こどものまち」関係者や奈良女子大学附属小学校の学習法に興味のある教員志望の学生などに呼びかけた。セミナーの具体的な流れとしては、以下のように進めた。

附属小学校の「めあて」「ふりかえり」を活用し、一人一人の気づきを大切にセミ

ナーをすすめていくという趣旨説明。

「こどものまち」と「附属小学校」のDVD上映による、参加者の本セミナーにおける「めあて」の作成。(ポストイットに記入後、黒板に貼りつける)

中村桃子氏による「こどものまち」の講演。「面白いと思ったこと」「類似経験について」「社会的なメリットについて」「疑問点・課題点」の視点から聴講する。
小幡肇教諭による「児童中心主義教育」の講演。「面白いと思ったこと」「類似経験」「社会的なメリットについて」「疑問点・課題点」の視点から聴講する。

講師への質疑応答

2グループに分かれ、「こどものまち」と「児童中心主義教育」における類似点と相違点をディスカッションする。この際、2グループに分かれる。

2グループの議論内容を発表しあう。

参加者による「ふりかえり」の作成(ポストイットに記入後、黒板に貼りつける)

以上のセミナーを通して、参加者の個人的視点を出発点として、子どもに対するまなざしを考えてもらうことができた。そして、今回の共通のテーマである、大人の「口出し禁止」については、子どもの主体性を活かすためには大人が単にだまって見守るだけでなく、子どもが大人の助けを必要とするときにサポートできるようにしておくことが理想であるという結論に達した。

・実施報告

1. 講演内容

1.1 中村桃子氏

- * ミニさくら、ミニミュンヘンの紹介
- * 第1回ミニさくらでの10代スタッフの活躍
- * 「こどものまち」の子どもにとっての魅力
- * 活躍の源
- * 大人の関わり方、役割
- * ミニミュンヘンの大人
- * 『こどものまち』の実践の意義

1.2 小幡肇氏

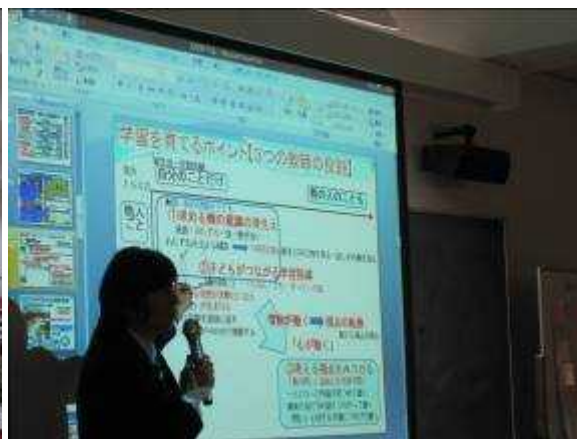
- * **前向きな子ども、明るい雰囲気、あたたかい人間関係**
受容的思考と反省的思考
- * **個人の学習を育てる・・・「独自学習・相互学習・独自学習」**
特に、相互学習を通して
 - ・ 言論の自由、見方の自由、実行の自由が、進歩する

- ・寛容、親切・互助、統制、協同正大、責任などの徳が、養われる
- ・感謝の念、感謝の情、社会の恩を感じる

* 学習の生活化と民主的な生き方

- ・自分の方法で、とことん追究する
- ・自由と協同の精神が貫かれる社会的生活の場

課題は、このような教育を経験したことのない教師や保護者の増加、狭い意味の学力にとらわれることへの危惧をもつ人々などを対象とした教育改造の熱をいかに冷まさないようにしていくかということである。



2. ディスカッション

ディスカッションでは2グループに分かれ、2人の講師のよる講演をもとに、「こどものまち」と「児童中心主義教育」における類似点、相違点を考えた。類似点については、子どもと大人の相互の歩みよりの関係について、大人は見守るだけでなく、一緒に楽しみながら関わっていくということが両者の特徴としてあげられた。一方、相違点については、「児童中心主義教育」は、学校という生活の場＝連続的な営みの中で行われるという特徴をもち、「こどものまち」では一時的なイベントとして行われるということが特徴してあげられた。特に「児童中心主義教育」においては、あくまでも教育の中で行われることから、到達する目標点が必要とされることが指摘された。一方で「こどものまち」は、遊びを軸としていることから、到達点などの目標はなく、ある意味では放任という状況にもなることが指摘された。そして最終的なまとめとして、両者は「遊び」と「学び」という違った軸において、子どもの主体性を伸ばそうとしていることが結論づけられ、そのために大人がどうあるべきかが個々人の課題として、全体で意見共有された。

3. アンケートの集計結果

実施後のアンケートの中では、本セミナーに参加したきっかけについて、「教育について深めたい」「こどものまちを知りたい」「子どもとの関わり方について知りたい」という3つの傾向が見られた。一つ目の「教育について」は、教職を志す学生に多くみられ、

附属小の児童中心主義教育に興味を示している人が多かった。二つ目の「こどものまちについて」は、附属小での実習経験者などが興味を示していた。さらに「子どもとの関わりについて」は、子育てや仕事など実践において子どもとの関わりを考えたいとして2つのテーマに興味を示していた。

参加者の「めあて」においても、上記の3つの傾向が見られ、特にどちらか一方を知っている人は、2つのテーマがどのように重なり合うのかその共通点を見出すことに興味を示しており、どちらも初めて聞く人は、その概念を認識すること自体に興味を示していた。そして「ふりかえり」においては、各々の「めあて」に対する気づきが多くみられた。具体的には「こどものまち」と「児童中心主義教育」における2つの共通点を見出したり、「こどものまち」から子どもに対する理想的な関わり方を知り、その具体的手法を「児童中心主義教育」から学ぶという傾向がみられた。

4. 企画者の総評・総括

今回の参加者は、「こどものまち」関係者は、千葉や大阪、奈良、高知など遠方からの来訪があり、その他近畿圏の学生や行政の方など様々な属性の人々が集まった。講演前には、参加者の問題意識の共有を行い、その中で「こどものまち」関係者は「児童中心主義教育」について興味を示しており、「児童中心主義教育」を知っている参加者は「こどものまち」に興味を示していた。また子育てのヒントや、仕事上での子どもとの交流のヒントを得たいと期待している参加者もいた。その中で、講演では、「こどものまち」と「児童中心主義教育」の現状や課題などについて話があり、それをもとにディスカッションが行われた。最終的には、「こどものまち」と「児童中心主義教育」における相違点と類似点をグループごとにまとめ、「大人口出し禁止」の意義について考えた。その結果、子どもの主体性を活かすための大人「口出し禁止」とは、単にだまっていることではなく、「必要なときにサポートのできる見守り」であるという議論の結論に達した。

以上のことから本セミナーでは、参加者の視点を出発点とし、講演内容を通して、それらを深める形で、新たな気づきを発見してもらうことができた。



(文責 花輪由樹)

資料1：参加者の「めあて」と「ふりかえり」の内容

「めあて」

- ・初めて聞く「言葉」 こどものまち 児童中心主義教育 とは何かを知る
- ・こどもの話合いに「誘導」は必要？「きっかけ」「刺激」は必要？大人からの本当の役割は？「見守り方」をいろいろ知りたい。「おもしろみ」の正体は？
- ・こどものまちと教育の共通点を知る
- ・大人「口出し禁止」の意義を考え 今後のとさつ子タウンにいかしたい
- ・子どもの自主性をのばす実践例をたくさん知りたい。教諭をめざすものとして知識を広げたい。
- ・児童中心主義教育についてもっと知りたい。「こどものまち」がどんなものか知りたい
- ・こどものまちで子どもとかかわるうえで大切なこと。自分がどうしたらいいのかなど学びたい。また他の県での取り組みなどを聞き、学んで参考にしたいと思って参加しました。
- ・子ども 主体 とはどういう意味か。その時教師（大人）の役割は何か。
- ・大人は子どもとどう関わっていくことができるのか。私はどう関わられるのか。ミニさくらとはなんだったんだろう？
- ・子どもとのかかわり方、子どもに対して。スタッフにたいして。
- ・ミニ大阪とミニさくらの違いを知りたい
- ・ミニ大阪で参考になる点がないか知りたい
- ・教育のあり方・意味について考えたいです。様々な視点から広く深く教育を考えるきっかけとして、大人口出し禁止の「こどものまち」「児童中心主義教育」を学びたい
- ・子どもが主体的に活動できるようにするには、大人のかかわり方はどうすればいいのか？
- ・口出し禁止の意義を知り、今後の子育ての参考になれば。口出しせずに、のびのびとした子どもに育てたい。
- ・子ども中心の授業がどういったものか知りたい。子どもとの距離のあり方を自分なりのこたえをみつけて、こどものまちに活かしたい。
- ・「こどものまち」を作ること。それが奈良女子大学附属小学校の「奈良の学習法」とどのように関わっていくのかに興味を持ち、学びたいと思った。
- ・児童中心主義教育のメリットを知る。何が自分にできるのか知りたい。
- ・人（子ども）が自分が責任をとって行動するとはどういうことか。要素として何があるのかをつかむ。
- ・「こどものまち」「口出し禁止」というキャッチフレーズにひかれました。現代社会はともかく流れにのれば勝手に流れます。考えること思うことなどからチャレンジが生じるものですが、その時間がないように思われます。どうすれば自らが問いをもち、発想を豊かに試行錯誤が生じる場が誕生するかに関心を持っていますので参加させていただきました。子ども主体の取り組みを進めないといけない現実なので。

「ふりかえり」

・どんな子どもに育てなければいけないか？

・土木工場の現場を担当しています。現場近くの小学生に工事現場の見学会を開催することもあります。こちら側から段取りしています。今日の講義をとおして子供たちに工事現場の何を見たいか、知りたいかを考えてもらいそれを活かすのもいいなと思いました。

・大人のできることをみつけました。子どものいうことの文脈を探ること。視点を探ること。視点を探ること。聴く力。消極的支援。機会の提供。共感すること楽しむことおもしろがること。

・単に口を出さないのではなく、こどもたちで話し合わせ、その話の中で方向性を見出していく大人（教師）はファシリテーターとして動くことが大変だということが分かりました。

・大人の関わり方は本当に難しいと思います。経験を積み学びたいです。

・私が小学生のとき、新聞を題材にして（NIE S）それぞれ調べたいテーマをもって取り組んだ事をおもいだしました。数枚の記事に書いてある情報の不一致に気付き、直接その会社に電話をかけて確認をしたことを覚えています。教室と社会がつながる事によって子供たちの情動がうごくのだと思います。

・キッズマートを4年前に実践しましたが、子ども主体で～に飛びついたが、求めすぎることは負担になるというのはよく分かります。やはり大人のスタッフがいます。公立ではそれらの考えが定着しない。本気に考えることには時間が少ない

・どうして子ども主体の社会、教育現場にならないか、なぜつukれないかを真剣に考える必要があります。よりよくしていく力、創意工夫の力、そのためのコミュニケーション力、共同体による問題解決し、人の支えあって実現しようとする子ども育成（こういううちからを培う場）が社会全体になくなっていくことが怖いと感じました。ほんとうにどうすればよいのでしょうか。

・「楽しむ」ということが共通点だと感じていました。どんなことでも楽しいからできると思っています。今日のお話をきいて、もっと他にも共通点があるなあと気づきました。詳しく書くと長くなるので省略しますが、こどものまじのことも自身の仕事のこともとてもためになりました。アリガトウゴザイマス。

・「口出し禁止」とは言ってもほっとくだけじゃない。大人のやるべきこともあるんだと思いました。でもその見極めは難しい。ミニさくらに対してこども目線から大人目線に変化している自分に気づきました。ちょっとさみしいけれど、今日がスタートになったらいいと思います。

・「こどものまち」と附属小の「児童中心主義教育」のそれぞれの子どもの在りかたから、子どもと大人の双方向の学びが意識されました。私は教育といえば、伝えること。大人や教員が知っていることをどういう風に子どもに伝えていくかが、教育を考えることだと思っておりましたが、子ども主体で学びが成り立つのだ、新しい発見でした。

・「子どものまち」の失敗談からは、子どものもつ大きな可能性と大人がカバーしなければいけないこと。(子どもの力を過大評価しすぎたり大きすぎる義務感をもたせない)について考えました。

・子どものまちで、このようなものをしたい。こうしたらいいのだという参与になることがたくさん学べました。ありがとうございました。

・「子どものまち」と「児童中心主義教育」との共通する考えが多くあることが分かった。子どものやりたいことができる環境がある一方で、大人がそこにいる役割について考えることができた。

・「こどものまち」という全く知らなかった実践例をしれた。すごくおもしろかったが、まだ実感的にわからないところもあるので、実際にふれてみたい。

・ まず自分が何を求めているのか、自分の気持ちを確認(明確)にすることが必要。

経験は自分のしたいことだけでよいのか

適切な達成課題、温かい人間関係。

・「見まもる」ということを他の人とどう共有すればよいのか。今これが一番気になっているのだと自分の中で整理できた。

・これから子どもの接し方を変えていければいいなと思います。親が変われば、子どもも変わると思います。見守りたいと思います。

・ミニさくらを通じて中村さんが実感した思い、非常に共感できたが、特にこどものまちの一番のポイントは、自活体験ができるということを再認識した。

資料2：アンケート結果

出席者：参加者 24 名(子ども 2 人含む) + 講師 2 + 企画者 2 計 29 名

アンケート回答者：18 名

本日のセミナーをどのように知りましたか

N棟のエレベーターに貼ってあったチラシから / 学内掲示板 / 花輪さんからの紹介 / 大学でのチラシ掲示と紹介 / 院生の方の紹介で / トサっ子ML 森岡さんに紹介いただきました / 奈良県青少年 生涯学習科の人から / 村井さん(下京青少年活動センター)からの紹介 / 職場のメール / 友人(奈良女子大学)のすすめ / 知人の紹介 / ミニなららの説明会 / 口コミ

セミナーに参加したきっかけ・動機を教えてください

教育について考えたかったから / 教職を目指していたので、子どもについて知りたいと思ったから / 教職を志す者として、どのように子供と接していくのか考えたかった / 「ならのまち」づくりに関心があったから / こどものまちというテーマから / 仕事上活かせる点があればと思い参加しました / 子どもとのかかわり方、今の自分に何が出来るかを知りたかったからです / 子どもとのかかわりについて情報がほしかった / 大変興味があったから / 口出し禁止の言葉にひかれて 今後の子育ての参考になればと思って / 今の

私に役立つそう/ 妻に誘われて/ 小学校の教師を目指しているから/ 子ども中心の授業というものを知りたかった/ 「ミニさくら」の様子を知りたかったから/ ミニさくらを知っていたので/ 大人「口出し禁止」の意義を考えたい/ 関係者が参加するから

1 本日のイベントでこれが良かった！！と思うものを教えてください

こどものまちについて 13 人

奈良女附属小について 10 人

ディスカッション 5 人

- 2 また、具体的に、何か感想などありましたら 教えてください。

思いがけない、新しい教育（歴史ある・・・）を知りよかったです/ こどもたちに考えさせる 失敗しても経験 あえて口を出さない（反省的思考）は大変勉強になりました/ 「おとな側」に立つという意味を知りました。/ やっぱり公開授業を見れば良かった！と思いました。/ 意見交換の時間まであってとても素晴らしかった/ 興味ある話を聞かせてもらいました/ ものすごくおもしろくてためになりました。たくさんの人のいろんな努力でこのセミナーが実現できてよかったですね。またつづけてください。/ 知らないことばかり貴重な話がきけました。/ 小学校についてです。「おたずね」がすごく良いように思いました。私の学年は受身な勉強しか出来ていないといわれます。よく教授に。それを小学生が行ってみたいと思っただけ、こんな授業を受けてみたかったと思いました。/ 子どもたちの主体性を尊重するのに大人はどういう姿勢をとればいいのか参考になりました/ 2つの共通点など良い所が多く知ることができました。/ 個人の意思と全体としての合意はとてもバランスのとりにくい問題です。自分のしたい事を進める中で、いかに多くの人に関わってくるのか知ってもらうことが大切だと思います。/ 「こどものまち」の存在を知らなかったのが、今日ここで話を聞いて勉強になりました。様々な視点を様々な人とのフィードバックで得られました。/

本日のセミナーで、改善点があれば教えてください。

途中の質疑応答、とてもよかったです。/ ディスカッションの時間に影響しましたね。素晴らしい内容だったので、もっと参加者が多ければよかった。/ 大学の入口にもう少し大きな（目につきやすい）看板がほしい。/ 奈良女生がもっと増えるといいと思う/ 部屋が寒かった。/ 当日スケジュールについて、事前に段取りを決めておいた方がよい/ 話を聞くことに集中できる環境が出来たらもっと良かったと思います。/ PCのこと以外は特にありません。ありがとうございました。/ 託児の有無や子どもをつれてきてよいかの案内があると助かります。欲をいえば、会場の一部にマットをひいて子どもスペースを設けてもらおうとうれしいです。/ タイムスケジュールを前にはっておく、書いておくほうが、プログラムに書いていても過ごしやすかったのではないかと思います。いつ質問できるか・や質問できるからこそ考えてとできたと思います。/ ディスカッションの時間はもっと強制的に切ってもいいと思いました。/ ミニミュンヘンのVTRを説明を聞きながらみたかったです。